



CS通信

北海道余市養護学校
学校運営協議会
第1号（通巻4号）

発行：令和5年8月23日

令和5年度の学校運営協議会がスタート！！

令和5年7月24日（月）13時30分から、本校（余市町）と分校（黒松内町）をオンラインで結び、令和5年度余市養護学校第1回学校運営協議会（コミュニティー・スクール）を開催しました。当日は、本校と分校合わせて12名の委員の皆様をお迎えし、学校長の学校経営方針説明後、本校と分校に分かれ、各部会テーマについて熟議を行いました。委員の皆様からは、各校の取り組みについて御理解と次のような貴重な御意見をいただきました。

本校部会テーマ「余市町に貢献する魅力ある教育活動の充実について」

始めに、教務部長より、昨年度から今年度にかけての学校と地域との繋がりについて、概要図を使用して説明しました。続いて、各学部主事より、小学部、中学部、高等部、訪問部、寄宿舎が推進している地域と連携した教育活動や今後の課題について報告しました。

その後の協議では、子どもたちが余市町に貢献する活動や地域で子どもたちが育ち学び合う活動などについて具体的な御意見をいただきましたので紹介いたします。



【本校部会の委員の皆様（左から、曾根委員、橋端委員、中井委員、生田会長、松井委員、田口委員、松川委員）】

小学部では、サクランボ狩りや遠足の他、りんごや野菜などの収穫体験も良い。中学部の蜜蝋ラップ、高等部の京極町のCuttingボードもとても良い。今後、作品展示の場について、イオンなど広がりがあると良い。（曾根委員から）

小学部では、学校近隣のスーパーやコンビニだけではなく、より商品が多いイオンなどへと行動範囲の拡大を図ると良い。町内での作品展示について、場所を拡大し、POP利用などの工夫をすると良い。（松川委員から）

町内のA型事業所の就労体験など、余市町総合政策部政策推進課として協力できることがあれば連携していきたい。（橋端委員から）

個々の適性を見つけられるようにしていくことが大切である。幸住学園として今後も関わりをもっていきたい。（松井委員から）

2年目となるCSの拡充がめざましい。今後、余市紅志高校でのトマト狩り、花壇整備、コラボ製品の開発などで学習活動を一緒に取り組むことが考えられる。さらに生徒以外の相手との関係の深化も求められる。就労体験の場として活用できる可能性もある。また、両校の教育課程について、連携している学習を照合しながら整理していくことが大切である。（生田会長から）

昨年度より、余市町観光協会とYoichi Tartanの製品作りを共同で行ってきた。win-winの関係性が確立できている。オリジナル製品を増やすこと、デザイン、ストーリー性などを含めて、今後も継続して協働していきたい。（田口委員から）

地域に存在する余市養護学校、まずこれが大きな地域貢献になっている。些細なきっかけから繋がりができる。学校が今後もあらゆる分野と繋がり、地域へ貢献できるようにしていきたい。（中井委員から）

分校部会テーマ「しりべし学園分校の児童生徒がめざす姿」について

分校部会では、昨年度、学校運営協議会を通じていただいた御意見を振り返るとともに、令和5年度から取り組んでいる様々な教育活動等について報告を行いました。その後の熟議では、テーマについて御意見をいただくため、3つの視点を切り口に委員の皆様から御指摘や御意見を伺いました。

視点1「児童生徒一人一人の可能性を引き出す教育活動の推進」のために

可能性を引き出すためには、児童生徒のこれまでの育ちや家庭環境も含めて学びの場を柔軟に決定していくことも大切である。特に特別支援学校への就学決定についても「一人一人の可能性を引き出すために」という考えを踏まえた対応をすることが求められる。

(内山委員、藤田委員、富樫委員から)

学校での学びを地域につなげることは、一人一人の可能性を引き出したり、発揮したりするために必要であり、社会で生かすための入口になるものである。そのために、教職員が知恵を働かせ、児童生徒がどのように地域の方々と一緒に活動したり、ふれあったりする取組を進めたり、考えたりすることが重要である。

(内山委員から)

視点2「学びの機会を保障し、質を高める教育環境の推進」のために

しりべし学園に入所してくる子どもたちの中には、日常生活の中での体験や経験が明らかに少ないことにより、できないことが多いと感じている。しかし、繰り返し学習する中で、できなかったことが少しずつできるようになることから、施設と学校がより一層、連携を図る必要がある。

(富樫委員から)

タブレット端末の活用については、一人1台端末で整備されていることも踏まえると、施設での活用についても進めるなど、環境を整備する必要がある。また、情報機器の使用や情報モラルの指導もきちんと進めることが大切である。

(内山委員から)

視点3「地域と歩む、持続可能な教育活動の実現」のために

私が所属している組織としては、しりべし学園分校の児童生徒のために、今後も、協力することができます。持続可能な活動とするためには、町内のイベントや催し物などに、児童生徒がお手伝い等を通じて協力できるよう工夫することも、1つの方法だと考えます。

(小谷委員から)

町内や地域の人たちは、分校のことや分校の先生方のことを知らない人が多い。そのため、学校行事等に地域の方々が参加する、教育活動を見てもらう、知ってもらう機会をつくることで、地域の方々とふれあったりする機会を大切にする必要があると考えます。

(藤田委員から)

今年度のしりべし学園分校の児童生徒がめざす姿について、御意見や御指摘をいただくことができました。これらのご意見を踏まえつつ、重点教育目標「児童生徒の心情に寄り添いながら、自立と社会参加に繋がる教育活動を推進する。」の具現化に向け、職員が一体となって組織的に取り組むこととなりました。

学校長より、まとめの御挨拶



【柏木拓也校長】

本校の地域での教育活動を展開するにあたり、キャリア教育の視点と「地域活性・地学協働・地域共生・地域貢献」の視点を踏まえうえて、学部段階や個々の発達段階に応じて整理していく必要があります。分校では、児童養護施設との連携、発達の保障、関係者との連携などが重要となります。

引き続きコロナ感染症対策のほか、安心安全な学校づくりに努めるとともに、今後とも、地域へ積極的に出かけて、本校の教育活動の一層の充実を図ってまいります。

【編集後記】

- ・御意見や御感想等がありましたら、下記にアクセスするか、右の二次元バーコードからフォームを読み込み、お知らせください。お待ちしております。
- ・今後も、地域と繋がり、学び合う余市養護学校をめざしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

【 <https://forms.gle/cKaKpFMZbccod58u6> 】

